

第2回専門部会 議事録（企業カテゴリー・地域カテゴリー）

平成27年12月16日（水）18時30分～

登別市市民活動センター のぼりん 2階 市民活動室A

◆出席委員：企業カテゴリー

松山 哲男 委員

合田 富重 委員

計2名

地域カテゴリー

藤田 康 委員

千葉 洋子 委員

米田 登美子 委員

井上 昭人 委員

岩崎 隆二 委員

計7名

◆事務局：商工労政グループ穴戸商工労政・新エネルギー主幹

奥田主査

竹中担当員

- ◆議題：（1）各専門部会における具体的事業（テーマ）の決定  
（2）事業内容の協議

【要旨】

項目	発言者	内容
(1) 各専門部会における具 体的事業（テーマ）の決定	事務局	ご多忙のところお集まり頂き、ありがとうございます。第2回専門部会を開催いたします。
	委員	拠点を作り、市内に循環させるためには、各地区のネットワークをどう構築していくかが重要になる。企業における連携という部分でいくと人材育成が必要なので、道の駅にインキュベーションの機能を持たせ広がりを持たせるとよい。
	委員	若草地区にはキーとなる物はないし、観光客が来るわけでもないし、亀田公園も桜の時期は人が来るが、それを過ぎると冬になると人が来なくなる。道の駅のような施設があれば循環させることができるのではないかと、そのためには各地区の連携が必要になると思う。
	委員	<p>登別は気候や土壌の関係で野菜があまり作れないと言われているが、昔は大根が結構作られていた、例えばある企業が札内で野菜工場を作ろうとしたが、水がないため断念した経緯がある。登別において野菜作りや酪農や観光があるわけだからそこに力を入れてやっていきたいと思います、それをやっていくことによって雇用も生まれるだろうし、お年が有償ボランティアでやってくればそういうことも可能性が出てくると思う、それを道の駅で販売を確保していく。</p> <p>登別で道の駅を作っても売る物がないと言われるが、例えば道内の野菜や水産物を取り寄せて売る方法もある。野菜は伊達の農協から取り寄せ、海産物は道東から取り寄せるなどいろいろやり方はあると思う。</p> <p>伊達の道の駅がいいと思うのは、家庭菜園から研究して新しい品種を作っている点であり、生きがい創出に繋がると思う。</p>
	委員	野菜や畜産に目を向けて、どういう取組をしていくのか、ステップ2としてその加工をどうし

		ていくのかを考えて道の駅を考えていけば順番としてやっていけばいいと思う。
	委員	<p>年間300万人も観光客が来る。これをどう活用するかが大事で、野菜作りや川上公園の方に花のガーデンやオートキャンプ場を作るとか、大きな構想を具体的に描き、第1期、2期、3期を分けて段階的に道の駅の構想を進めていけば良い。</p> <p>若い人を呼ぶなり、異業種間交流をやるとか、そういうことをやることによって、例えば工場を作るにしてもいろんな提案が出てくると思う、地元の関係者が集まり、練っていけば良い情報交換になる。</p>
	委員	<p>観光客が来ても昼間に遊ぶ場所がないと言われている。昼間の魅力がないことと、一つの道の駅があれば良いのではなく、雑誌で見る、食べる、遊ぶなど地域でテーマを決めてコーディネートした上で一つのものにするためのネットワーク作りができれば良い。</p> <p>登夢くんやえんま君を市内各所に点在させておいて、スタンプラリー的に市内各所を回ってもらうなどの仕掛けも良いと思う。</p>
	委員	<p>観光客から外貨を獲得するためには循環が一つ、もう一つは地域間の連携、この2つがキーワードになってくる。道の駅あるいは野菜づくり、オートキャンプ場やバーベキューコーナー、ガーデンやドックランを設置するとともに、地元の食材を加工し付加価値を付ける工場など、考えられるアイディアは沢山ある。それらをどこでやるのか、そのあたりの構想を数年計画として具体的に提示することが地域にとって大事なことだ。</p>
	委員	<p>観光客が温泉に行くだけでなく、市内を循環してもらうような仕組みを作るのが大事だと思う。例えば、マップを作成するなどの情報発信を通じて食や景色の魅力を伝えることで、市内各地に来てもらうきっかけを作ることが大事だと思う。</p>

